

令和2年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第3回対人援助スキルアップ部会を開催しました



初！オンライン開催！

近況報告では豪雪の苦勞話を分かち合いました。

・専門職は人間関係の構築に時間をかけるより、「専門職として、〇〇を提案する」など課題の遂行を重視してしまいがち。

- ・利用者は“低い立場”、支援者は“高い立場”に置かれやすい。利用者が“高い立場”に感じられるよう、支援者は拙速にサービスを提供するよりも、ご本人まるごとを尊重し『謙虚に問いかける』ことが大切。
- ・ご本人の苦しみを知り、『満たされていない心理的ニーズ』を解消していくことが大切。

○1月21日（木）19：00～Zoomによる第3回対人援助スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー6名と在宅医療推進センターコーディネーター1名、事務局3名でした。

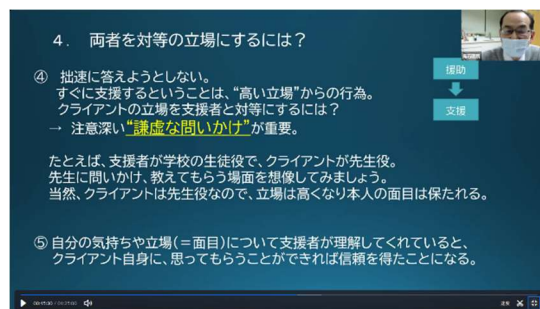
○今回は、事例を通して支援をする中で大切にしたい支援者の考え方や関わり方等を共有しました。

事例検討では、小山副部長から「利用者の希望と、支援者の提案が合致しないケース」を紹介いただき、病気の管理や復職等の目標に前向きに取り組もうとしない利用者に対して、リハビリ担当としてどのように関わればよいか悩んでいるケースについて、検討しました。

部会メンバーからは、次のような意見が出されました。

- ・利用者は、目標や現在の生活等に不安を抱えているのではないかな。
- ・思うように状況が改善せず意欲が低くなっているのではないかな。
- ・不安や苦しみを受け止めてくれる人がいるとよいのではないかな。 など

また、揚石委員からパーソン・センタード・アプローチの視点を基本としたアドバイスがありました。



【部会メンバーの感想から…】

- ★「指導的」にならないよう、利用者の話をしっかり聴くことから始めたい。
- ★「何かしなければ」だけではうまくいかない。利用者の発する言葉に敏感になりたい。
- ★日頃の関わりを振り返って反省。支援者として、ついしゃべりすぎることもある。
- ★支援は人間と人間の付き合いから始まると思った。 など

《今後の予定》

OR3 年度も事例検討などを通して『パーソン・センタード・アプローチ』の理解を深めていく予定です。